

鈴木正三・重成公ゆかりの天草を訪ねて 第7回目

天草と東海地方とのつながり

1. 天草 芳證寺(細川興秋)と 岡崎 細川城址、蓮性寺

1-1 蓮性寺に残された細川家の家系図

鎌倉時代 足利一族の足利義季(よしすえ) 三河の細川郷へ。細川義季
鎌倉時代末期 細川家五代細川頼之(よりゆき) 細川郷で誕生。義満の執事
戦国時代 細川家の支流から細川藤孝(ふじたか)。
江戸時代初期 細川藤孝の長男、忠興(ただおき)が活躍。正室、ガラシヤ
江戸時代初期 細川忠興の次男、興秋(おきあき)

天草で300年間、秘匿の事実

1-2 天草 五和町 芳證寺の「證」と 足助 上八木 宗源寺の「澄」

1-3 細川藤孝以降の細川家の流れ

細川藤孝は室町幕府13代将軍・足利義輝に仕える。
織田信長に従い、丹後国宮津11万石の大名となる。
織田信長の薦めで、長男忠興と明智光秀の娘玉(後に細川ガラシヤ)が婚姻。
本能寺の変。親戚である明智光秀の要請を断り、剃髪し家督を忠興に譲る。
忠興は正室玉(光秀の娘)を丹後国に幽閉。
忠興は豊臣秀吉に従い、小牧・長久手の戦いに参戦。
関ヶ原合戦の前、会津上杉征伐の徳川家康に従う。
大坂で留守を守った細川ガラシヤは石田三成軍に囲まれ自刃。
関ヶ原合戦で東軍として石田三成本隊と戦闘。
大坂の陣。忠興と三男忠利は徳川軍。次男興秋は豊臣軍。
三男忠利は熊本54万石次男興秋は伏見の東林院で切腹。天草で300年間、秘匿

東南アジアの仏教

私たち日本人の仏教は大乗仏教と呼ばれています。大ということは、どこかに小さいものもあるわけで、それは小乗仏教と呼び、何となく東南アジアの仏教のことを指していると思っている人も多いようです。本講義では私たちが仏教と思っている大乗仏教が世界的には実は少数派であることを概説し、メジャーである上座仏教の特徴を簡単にスケッチすることを通して、仏教書を読んだだけでは分からない大乗仏教の特色をあぶり出していきます。

1 - 世界の仏教事情

- ・ ミャンマーのお坊さんが日本のお寺巡りをしたら・・・
- ・ 世界的な瞑想ブーム
- ・ 日本の仏教は変わり者？

2 - 上座仏教（テーラワーダ仏教）とは

- ・ 根本分裂
- ・ 小乗仏教は存在しない
- ・ ミャンマーのお坊さんの一日
- ・ 戒律について
- ・ お経とは何か

3 - 大乗仏教との相違点

- ・ 二つの涅槃経
- ・ 永遠と無常
- ・ 大乗仏教は異端なのか？

<参考文献>

涅槃経を読む 高崎直道 岩波書店

大乗仏教の誕生 高崎直道監修 春秋社

In this very life U.Pandita Sayadow Wisdom Publications

Mahā Parinibbāna sutta(Dīgha Nikāya16) Pāli text society London

江戸時代初期の僧、鈴木正三に私は関心を持っています。正三の弟、重成が天草の初代代官になり、正三の実子、重辰が二代目天草代官になって以来、約三百八十年のつながりが足助と天草にあります。そのご縁により天草高校同窓会中京支部会報誌を送っていただきました。同窓会報誌には天草高校の最新情報や会員の近況報告、天草の歴史、天草を愛する思いの文を伝える記事などが満載されていました。楽しく読みました。話が脇道にそれますが、同窓会支部名である「中京」ということはを私はあまり使いませんでした。

初年代官鈴木重成より380年



佐藤一道

中京地区と天草のつながり

う地域名を使い、この地域に誇りをもっていることを始めて知りました。先祖代々、我が家は名古屋に住んでいましたが「尾張」という地域名を使うことはありませんでした。三河も尾張も区別せず愛知県でした。

名古屋を含む次に広い地域を指すことは私にとって愛知県でした。足助に来て皆さんが「三河」とい

う地域名を使い、この地域に誇りをもっていることを始めて知りました。先祖代々、我が家は名古屋に住んでいましたが「尾張」という地域名を使うことはありませんでした。三河も尾張も区別せず愛知県でした。

名古屋を含む次に広い地域を指すことは私にとって愛知県でした。足助に来て皆さんが「三河」とい

島地震のお見舞いを述べたあと北陸地方は中京地区の範囲内であるから心配していませんと寄稿されています。天草の人にとって石川県、富山県は「中京」なのだと認識しました。名古屋に生まれ育った私は固有名詞として中京テレ

今年正月に発生した能登半島地震のお見舞いを述べたあと北陸地方は中京地区の範囲内であるから心配していませんと寄稿されています。天草の人にとって石川県、富山県は「中京」なのだと認識しました。名古屋に生まれ育った私は固有名詞として中京テレ

職しました。中学三年生の仲間四人が名古屋の会社に就職しました」と書かれてありました。名古屋を中心として豊田や四日市、東海、大府などの工業地帯に集団就職した九州南部の人々にとって自分が入っている所は中京工業地帯であると思っていたことでしょう。その人たちが起こした支部の名称は「中京」が最適でした。天草の人々が中京地区の発展に寄与したことは現代に限りません。江戸時代後期、瀬戸の陶器は肥前国有田の磁器に押され衰退しました。衰退した瀬戸を今一度、復興したのは瀬戸村出身の加藤民吉です。民吉は磁祖と呼ばれています。当時、天草の東向寺住職が瀬戸菱野の出身であったことから、その住職を頼って民吉は天草へ赴きました。民吉が磁器制作の技術を学び、瀬戸が復興できたのは天草の人々のお陰でした。

ひとが中京銀行と使います地域名詞として使ったところがありません。送られてきた同窓会誌を読んで気が付いたことがもう一点ありました。関東支部の会長さんの文章には「昭和36年春、中学卒業と同時に中京へ集団就

さとう いちどう 豊田市綾渡町奥 12、平勝寺住職。1948年名古屋生まれ、同志社大学工学部卒業。1976年、紫竹林安泰寺にて出家、同寺にて十年修行、1988年から平勝寺に住む。